

平成29年度 県立多賀高等学校 自己評価表

目指す学校像	(1) 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校			
	(2) 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校			
	(3) 特別活動を中心に、社会の形成に有為な人材となるための能力を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校			
昨年度の成果○と課題△		重点項目	重点目標	達成状況
○ 約8割が授業に真剣に臨み内容を理解 △ 家庭学習が不足傾向	(1) 授業を中心とした学習指導の充実		① 授業交換の完全実施等により授業時間を確保し、シラバスに基づく進行管理と授業規律を確立する。	C
			② 授業の創意工夫により、「わかる授業」を展開し、併せて応用力を育成する。	
			③ 家庭学習時間調査を踏まえ、課題設定の工夫等により、一定程度の家庭学習を定着させる。	
○ 希望進路実現率90%超 ○ 数学・英語検定合格者増 △ 国公立大合格者微減傾向	(2) 大学進学にも対応する進路指導の充実		④ 大学への適性を見極めと可能性の開発に努め、課外等の充実により、国公立大学等への進学を促進する。	C
			⑤ 一人一人の希望進路に応じた進路指導、特に、面接指導を充実させる。	
○ 80%超が規則を遵守し落ち着いて生活 ○ 地域・保護者からの評価も向上 △ 規範意識が受動的な傾向	(3) 自律心の育成、カウンセリング体制の整備		⑥ 挨拶の励行等により、内発的な規範意識の醸成に努め、問題行動を未然に防止する。	B
			⑦ 保護者との密な連携やスクールカウンセラーの活用等により、生徒の心理的課題に早期に対応する。	
○ 1年後期以降部加入率90%超 ○ 23部中21部が県以上の大会等へ出場・入選 ○ HRへの帰属意識が向上 △ 1年後期以降退部者が微増傾向 △ 委員会活動が受動的な傾向	(4) 特別活動の充実・強化		⑧ 部活動加入を促進し、スポーツ・文化・芸術を楽しむ愛する心や物事をやり抜く力、成就感等を育成する。	B
			⑨ 学校行事に対する参加意欲の向上に努め、ホームルーム・学年の連帯感や母校愛を醸成する。	
			⑩ ホームルームや委員会等、生徒が企画立案し実行する取組をとoshi、役割意識や責任感を育成する。	

※部活動は全23部のうち県大会等があるのは21部

* 評価基準：A（十分できている），B（達成できている），C（概ね達成できている），D（不十分である），E（できていない）

評価項目	具体的目標	具体的方策	評 価		次年度への課題
教 務	1 授業時間の確保	1 継続 1分1秒を大事にする毅然とした指示・連絡を発する	B	C	・学習指導要領改訂に伴う教育課程の再構築 ・国公立大学希望者の進路実現への対応 ・シラバスにおける観点別評価の実施状況 ・授業交換完全実施の状況把握
		2 継続 非常時においても柔軟かつ臨機に対応する	B		
		3 拡充 授業交換を完全実施し、自習時間をつくらない	B		
	2 教育課程の着実な実施と研究	1 拡充 年間指導計画(シラバス)を着実に運用する	C		
		2 新規 国公立大学志望者にも対応できる教育課程を研究する	C		
	3 指導と評価の一体化の研究	1 拡充 生徒の実態に応じ、観点別評価を推進する	C		
	4 情報の管理・活用	1 継続 校内諸規定の遵守により、個人情報の管理を徹底する	C		
		2 継続 成績処理等を迅速化する	B		
生徒指導	1 基本的生活習慣の確立	1 継続 登校指導・ホームルーム・授業・部活動等のあらゆる場面で、あいさつをし合うよう促す	C	C	・校内外における職員の教育相談の関する研修
		2 継続 集会やホームルームにおいて、生徒心得を周知徹底する	C		
		3 継続 教室の整理整頓や清掃を徹底する	C		
	2 颯爽とした容儀の徹底	1 拡充 登校指導や授業開始時に、服装を正すよう促す	C		
		2 継続 年8回容儀指導を実施し、必要に応じて家庭と連携して再指導を行う	B		
		3 継続 集会やホームルームにおいて、儀式等の重要な場面で自ら容儀が正すことの大切さを説諭する	C		
	3 遅刻の減少	1 継続 遅刻カードを利用し、回数の抑止を図る。月10回を超えた生徒へは保護者に来校を求めた上で連携を図りながら指導に当たる	B		
	4 問題行動の未然防止	1 拡充 校内外の計画的な巡回を実施する ～校内毎日、校外月1回	B		
		2 拡充 年間5回の各種講演会を実施し、問題行動の悪影響を認識させる	B		
		3 拡充 被害調査を年3回実施し、いじめや盗難被害を早期に把握する	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策		評価		次年度への課題
生徒指導	5 交通ルールの遵守による安全な通学の実現	1 継続	全教職員の協力により、月1回の一斉登校指導を実施する	B	C	
		2 拡充	地元警察署員の講話を実施し、交通社会の現状や事故のリスクについて理解させる	B		
		3 拡充	自転車登録と色別ステッカーの添付及び施錠を徹底させることにより、違法駐輪を防止する	C		
		4 継続	自動車教習所通学に係る指導を行い、免許取得時期や運転の制限について指導を徹底する	B		
	6 教育相談による生徒への支援の充実	1 拡充	生徒が相談しやすいよう相談室を整備し、スクールカウンセラーによる面談を実施する	C		
		2 継続	担任（学年）及びスクールカウンセラーそれぞれとの連携を充実させる（SC来校は月2回予定）	C		
		3 拡充	学年会議・職員会議等において、情報をできる範囲で発信する	C		
		4 拡充	校内外における研修を促し、自信をもって面談アプローチができる知識・技能の修得者を増やす	D		
進路指導	1 学習習慣の確立と職業観育成による適切な文理選択（第1学年）	1 拡充	小テストや課題の設定を工夫し、授業を中心とした家庭学習の習慣を確立する。	C	C	・家庭学習を定着させる指導や方法 ・集会など学習指導の方法 ・課外のあり方 ・模擬試験の代金の集め方と保管 ・進路部員全体の共通理解や意思疎通を図る ・国公立大学の推薦入試の対策
		2 継続	大学見学会、進路講話などのキャリア学習を実施する	B		
	2 職業・大学研究と学力練成（第2学年）	1 継続	早朝課外や長期休業時課外などにより、学習時間を増加させる	C		
		2 継続	キャリア見学会、分野別ガイダンスなどにより、勤労観を育成し、望ましい職業・学部選択をさせる	B		
	3 適切な進路選択と受験対策（第3学年）	1 継続	進路説明会、医療看護講習会などにより、将来自立して生活するために、自分にとって適切な進路を主体的に選択させる	C		
		2 継続	入学・入社試験に向けた課外や模擬面接を強化する（課外は通年、模擬面接は5回）	C		
	4 各学年共通のガイダンス体制の構築へ向けた改善	1 新規	学年ごとの研修を実施し、キャリア教育に関する理解を深める 教科における指導の連携を深める	C		
		2 拡充	教員間の連携を徹底するとともに、PDCAサイクルに基づく検証により各業務を随時改善する	C		
		3 継続	国公立大学合格者増のための指導や体制づくりを研究する	C		

評価項目	具体的目標	具体的方策		評 価		次年度への課題
特別活動	1 教師と生徒の望ましい人間関係の育成（ホームルーム活動・学校行事、部活動）	1 継続	リーダー研修を実施し、ホームルーム役員中心の話し合いの場を増やす（教師はできる限りアドバイザーの立場に徹する）	C	B	・部活動の今後のあり方（部活動数の精選 部活動顧問 部活動全員加入 強化部活動設置 部活動の実施内容） ・松苑祭の実施内容（前回反省からの課題・金券取り扱い 企画内容全般） ・リーダーとなるべき生徒の育成手段の構築と実践方法の確立
		2 継続	話し合いにより決めたLHR計画に基づき、レクリエーションや校舎外清掃等を通して、教師と生徒、生徒相互の信頼関係を育成する	C		
		3 継続	各種行事を通して、ホームルームの協力性と団結力を高める。また多賀高生としての自覚を高める企画内容となるよう工夫する	B		
		4 継続	1年生全員部加入制の下、顧問会議・部員集会・面談等、全教員が部員の動向を把握し、計画的・積極的に指導する体制を整備する	B		
	2 自主的態度の育成と生徒立案による活動の促進（生徒会活動）	1 継続	委員会活動や生徒総会により、生徒会組織に関する周知を促し、和を大切に活動させる	B		
		2 継続	話し合いにおける意見調整の体験を通じて、全体の中の一員であることを意識させ、協調性を養う	B		
		3 継続	執行部には、生徒会活動、各行事、各種会議を通して組織運営のためのノウハウを向上させる。	C		
		4 継続	各種委員会委員長会議を定期的に行い、話し合いにより活動計画を立てさせ、役割を果たさせることにより、生徒会会員である自覚をもたせる	B		
	3 部活動に係る施設の管理の徹底、予算の円滑な執行（部活動）	1 拡充	松苑会館の定期点検を毎月一度係で行う	B		
		2 拡充	部室棟の定期点検を2週間に一度行う	C		
		3 拡充	会計係に、部・委員会の生徒会費・旅費の執行状況を確認させる（12・1月に部・委員会顧問に予算執行を文書で促す）	B		
		4 拡充	施設・設備等の備品の管理を学期ごとに点検・確認する	B		
保健厚生	1 学習環境の美化・整備	1 継続	毎日の校内清掃とゴミの分別を徹底させる	C	B	・定員減による役割分担の見直し ・ゴミの分別を徹底。 ・生徒用トイレの改修など、環境整備 ・校舎外の安全点検の計画的な実施。
		2 継続	生徒会専門委員会（清美・保健）の活動を活性化させる	C		
		3 継続	「クリーンアップ作戦」（学校周辺清掃）を5回実施する（うち1回は外部団体と共催）	B		
	2 施設・設備の安全確保	1 継続	月1回程度、保健厚生部による校舎外安全点検を行う	C		
		2 継続	防災訓練を2回実施する	B		
	3 生徒の健康の保持増進	1 継続	定期健康診断を実施し、事後措置の徹底を促す	B		
		2 継続	生徒にとって利用しやすい「保健室」づくりを工夫する	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評 価		次年度への課題
図 書	1 蔵書の整備	1 新規 蔵書廃棄の基準を作り，当該蔵書を廃棄する	C	B	豊富なバリエーションの書籍を購入し、図書館利用率の向上に努める。
		2 拡充 修学旅行や小論文対策，「おすすめする本」等のコーナーを設ける	B		
		3 継続 生徒や職員から広く購入希望を募り，本や視聴覚教材をそろえる	B		
	2 図書館利用の促進	1 継続 「図書館だより」を年2回作成し広報活動を行う	B		
		2 継続 （事務と連携し，）パソコンの整備をし，バーコードを活用する	B		
	3 生徒図書委員会の活性化	1 継続 カウンター当番や各係の仕事について指導を徹底する	B		
		2 継続 県北地区と茨城県の図書委員研修会に積極的に参加させる	C		
渉 外	1 学校行事（式典等）の円滑な運営	1 継続 校内組織との緊密な連絡調整をする	A	B	・PTA総会の参加者の増加の対策 ・PTA役員の確保
		2 拡充 発送文書を適切に早期に作成し，行事参加者を増やす	C		
		3 継続 P T A 総会や，講演会等の出席率が50%以上になるよう工夫，改善をする	C		
	2 P T A 活動の活性化	1 拡充 保護者に一斉登校指導や，文化祭・体育祭等の学校行事に積極的に参加するよう呼びかける	A		
		2 継続 P T A 研修視察旅行の参加者が70名（バス2台）となるよう工夫する	A		
		3 新規 各種外部研修会参加の成果を本校教育に活用できるよう発信する（他県・他校 P T A 活動を含む）	B		
		4 継続 年3回の学年委員会，研修会を実施し，親睦を深め，組織の活性化を図る	C		
	4 広報及び生徒指導委員会への支援	1 継続 P T A 広報誌を年2回発行し，P T A 活動と学校の教育活動の積極的な広報に努める	A		
		2 継続 保護者に登校指導（年6回），地区の巡回指導，列車添乗指導への参加を促す	B		
	5 保護者の学校への関心の増進	1 拡充 保護者面談（6月）を活用し，保護者一人一人に学校の教育活動を積極的に提示する	B		
		2 新規 来年度の松苑祭公開に向け評議員・保護者が参加できるコーナーを設けられるよう働きかけ・準備を開始する	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策		評 価	次年度への課題
第一学年	1 基本的生活習慣の確立	1 継続	授業やHR、道徳のほか、月に1回集会を実施し、人の話を聞くこと、言われたことを実行できることの大切さについて継続的に指導する	C	・より主体的に授業や部活動、行事等に取り組ませる必要がある。 ・進路意識を高め、進路実現への行動力をさらに養う必要がある。 ・課外や課外必修クラスの在り方について研究する。 ・朝の小テストに数学を加えるなどにより、さらに学習習慣を確立させる。
		2 継続	集会やHRにおいて、時間やルールを守るよう指導を徹底する（皆勤者5割以上目標）	C	
		3 継続	登校指導において、正しい容儀の在り方を指導する	B	
		4 継続	日々の清掃を通して環境整備に努め、年間1回以上はHRで校舎外清掃を行う	B	
		5 継続	年間3回以上面談を実施するとともに、必要に応じて家庭と密に連絡をとる	B	
	2 基礎学力の定着	1 継続	休み時間に授業の準備をすることを徹底させる	C	
		2 継続	朝ドリルを実施し、課外への積極的参加を促す	C	
		3 継続	進路講話や大学見学会などを実施する	B	
	3 望ましい人間関係の構築	1 継続	HRや集会、登校指導等において、日常の挨拶や礼儀について指導する	C	
		2 継続	学校行事やHR活動ができる限り生徒主体に運営できるよう工夫する	C	
		3 継続	登校指導、学校行事、進路指導を通して、教師と生徒との信頼関係を築く	B	
	4 部活動加入の促進	1 継続	後期以降も9割の加入率を維持できるよう学年を挙げて働きかけ支援する	B	
第二学年	1 内発的な規範意識の育成	1 継続	授業やHR、道徳、集会を通して、言われなくても自ら気づくことの素晴らしさと大切さについて継続的に指導する	C	・朝課外の時間が短かく、成果が上がりにくい状況である。 ・家庭学習習慣の確立・模擬試験対策が不十分である。
		2 継続	容儀指導を通じて、制服の正しい着方や、ルール・マナーを自発的に守ることの素晴らしさについて理解させるよう工夫する	B	
		3 継続	清掃、奉仕作業における指導・評価において、自らすすんで実践することの大切さを体感させる	C	
	2 進路研究の推進と自学自習習慣の確立	1 継続	課外を推進し、自分に適した学習法を身につけさせる	C	
		2 継続	進路講話・企業訪問などにより、職業観を育て、進路選択の準備をさせる	B	
		3 拡充	課外・模擬試験・検定試験への参加を促し、学力の向上を図る	C	

評価項目	具体的目標	具体的方策		評 価	次年度への課題
第一学年	3 上級生としてのリーダーシップやロールモデルの確立	1 継続	HR, 集会, 部活動等において, 挨拶, 礼儀, 言葉遣いを含め, 学校や各組織を支える上級生としての在り方について指導する	B	
		2 継続	生徒会・委員会活動やHR活動, 部活動等において, できるだけ生徒が主体的に企画運営できるよう助言に当たる	C	
		3 継続	修学旅行等の学校行事や年3回の面談を通し, 生徒間, 生徒・教師間の信頼関係を深化させる	B	
	4 部活動の推進	1 継続	部活動未加入者に対し, 学年を挙げて再加入を促す	C	
第三学年	1 社会人として求められる規範意識やマナーの体得	1 継続	授業やHR, 集会等を通して, 言われなくても自らすすんで実践することの素晴らしさと大切さについて継続的に指導する	B	C ・卒業学年として, 各自の進路希望を概ね達成できたという意味においては全体評価C。次のまわりの学年においても基本的につけさせるべき力は変わらないであろう。今後, 実績をより上げていくためには進路希望先を早く明確にし, それに向けた学習に取り組む(取り組ませる)指導が必要。そのためには学年主導ではなく, 部活動のあり方や課外のあり方など含めて学校全体の方針としてやり方を考えていくべき。 ・生徒指導進路指導に学年団としてまとまって取り組めた。このような学年経営は引き続き継続すべきである。
		2 継続	登下校指導や容儀指導を通して, 社会に通用する服装やマナーなどを体得させる	C	
		3 継続	清掃や奉仕作業を通して, 快適な生活環境を保つと共に集団に奉仕・貢献する精神を養う	C	
	2 進路実現のための学力向上	1 継続	面談(年3回以上)を通して, 進路希望を具体化させ, 目標に適した学習法を助言する	C	
		2 継続	面談等を通じ, 課外・模試・検定試験などへの参加を最大限支援する	C	
		3 継続	面談等により, 模擬試験結果等のフィードバックに基づく適切な進路選択をさせる	C	
	3 最高学年としてのリーダーシップと集団をよりよくしようとする態度の育成	1 継続	授業やHR, 集会等において, 挨拶・礼儀・言葉遣いについて模範的に振る舞うよう継続的に指導する。	B	
		2 継続	生徒会・委員会活動やHRにおいて, 生徒の主体的な企画・運営を促す	C	
		3 継続	生徒会・委員会活動やHR, 学校行事, 部活動等において, 協調性や責任感, 相手を思いやる心や公正な態度を養う	B	
	4 部活動の推進	1 継続	面談等を通じ, 最後まで部活動をやり遂げるよう支援する	B	
		2 継続	HRや集会において, 最高学年としてのリーダーシップを発揮するよう促す	C	

評価項目		具体的目標	具体的方策		評 価		次年度への課題
教科	国語	1 基礎学力（漢字・文法事項等）の定着	1 継続 基礎的学習習慣を育成し、副教材を活用した小テスト等を実施する	B	C		・プレゼンなど発表する力を育成する。 ・読書指導を充実させる。 ・語彙力漢字力等基礎能力の定着を図る。 ・学校全体として生徒の学習意欲や学習習慣を形成できるように働きかける必要がある。
			2 継続 検定試験の受検を推奨し、それにより目標を設定した学習を継続させる	B			
		2 読解力・思考力の育成	1 継続 発問や板書等を工夫する	B			
			2 継続 週休日等に課題を出し、チェック・評価する	C			
			3 継続 図書室や新聞の利活用の効用を積極的に説くことにより、読書量を増進させる	C			
		3 表現力の向上	1 継続 主体的に意見を述べる機会を設けられるように授業を工夫する	C			
			2 継続 論理的自己表現力の向上を図るために、小論文指導を積極的行う	C			
	地歴・公民	1 基礎学力の定着	1 継続 ワークノート等を活用して、予習・復習の習慣を身につけさせる	B	C		・受験に対応した学習指導を工夫する。 ・教材の収集を充実させ、作業を含めた自発的な活動を促す。 ・視覚教材を使って、理解の深められる授業内容を多く展開する。
			2 継続 発問を数多く行い、理解を深めさせる	C			
			3 継続 単元ごとの小テストを実施する	B			
		2 授業への積極的参加	1 継続 資料集や視聴覚教材・実物教材の活用により、視覚に訴える授業を行う	C			
			2 継続 作業内容を含んだ授業を設定する	B			
			3 継続 生徒の質問の機会を数多く設け、自発的な活動を促す	C			
	数学	1 基礎学力の定着	1 継続 課題を定期的に出すことで、予習⇒授業⇒復習のリズムを習慣化させる	C	B		・AL的視点に立った授業改善 ・新学習指導要領に伴う研究 ・数研課外をどう扱うか ・2－1の改善
			2 継続 生徒の能力・進路希望等に応じて、年間を通して課外授業を行う	B			
			3 継続 演習の時間を確保し、能力に応じた指導を行う	B			
		2 数学的活動を通しての創造性の基礎の育成	1 継続 実生活において数学が果たす役割等の内容を積極的に導入し、また、主体的に問題を解決する活動をとおして、数学への興味関心を高める	C			

評価項目		具体的目標	具体的方策		評 価		次年度への課題
教科	理科	1 理科の素養の向上	1 継続	実験や観察をできるだけ多く取り入れ，自然現象や事物に直接触れる機会を設ける	C	C	・ 年間の実験数の確保 ・ 入試に対応する力をどう育てるか（課外の十分な実施など）
			2 継続	実験の計画，操作，データの処理，レポートの作成などを通して，科学的な探究心，判断力，表現力を育成する	C		
		2 生徒の実態や進路希望に合わせた学習計画	1 継続	生徒の能力や学習状況により，必要に応じて課題や補習等を計画する	B		
		3 わかりやすく，生徒が興味を持って取り組める授業展開	1 継続	プリントや演示実験，コンピュータ利用，DVD視聴など，実物や映像などを取り入れた授業展開を工夫する	B		
			2 継続	研修会，各種講座に参加し，知識や技能を習得して指導力を向上させる	C		
		保健体育	1 規律遵守の徹底（体育）	1 継続	集団行動の意義を理解させ，徹底させる		
	2 継続			授業での約束事を設け，遵守させる	B		
	3 継続			学校指定のジャージ，Tシャツ，シューズの着用を徹底させる	B		
	2 基礎体力の向上（体育）		1 継続	毎授業の始めに体づくり運動・体ほぐしの運動を実施する	C		
			2 継続	単元ごとに運動量確保のための場を設定する	C		
	3 運動技能を高め，運動の楽しさを味わうことができる授業の実践		1 継続	各種目の技術の特性を研究し，基礎基本を徹底させ，個に応じた指導を深める	C		
			2 継続	技能向上につまずきのある生徒に配慮し，できる喜びを味わわせる指導法を工夫する	C		
	4 基礎基本を重点的に，わかる授業の展開（保健）		1 継続	視聴覚教材を積極的に取り入れ，わかる授業を展開する	C		
		2 継続	毎授業後に授業内容を点検し，次授業への改善に生かす	C			

評価項目		具体的目標	具体的方策		評 価	次年度への課題
教科	芸術	1 創作の喜びとを実感させる授業展開	1 継続 本校生の興味・関心を高める教材を開発・工夫する	B	B	・授業時製作品の展示スペースの新設。 ・相互乗り入れ授業の検討。
			2 継続 単元教材毎の習得すべき内容を明確にし、分かりやすい授業を行う	B		
			3 継続 個々の生徒に応じた指導をきめ細かく行い、学習意欲を高め、一つの作品を丁寧に創り上げる楽しさを感じさせる	B		
		2 達成感を感じさせること、言語活動を取り入れた鑑賞教育の充実	1 継続 教室や廊下の展示スペースに多く作品を掲示し、自作品を客観的に見る機会を提供する	C		
			2 継続 作品から感じ取ったことを言葉で表現する力を高める授業展開を工夫する	B		
	外国語	1 基礎学力の定着	1 継続 定期的に宿題を出し、長期休業後には課題の確認テストを行う	C	C	・中学校からの基礎知識の積み残し対策 ・CAN-DOリストの更新および共有 ・4技能の育成に対応した授業研究 ・生徒の積極的な授業参加を促す手立て ・英検の組織的指導体制の整備
			2 継続 英単語等の小テストを毎週実施する	B		
		2 英語の語順とリズムの定着	1 継続 ICTを活用する等し、様々な音読方法を実践する	C		
			2 継続 英語を意味のつながり（チャンク）でとらえさせることに重点を置いて指導する	C		
		3 コミュニケーションの道具としての、読む書く聞く話すの4技能の統合的・総合的な育成	1 継続 シラバスにより、月間、年間、さらに3年間の目標到達度を職員間で共有する	C		
			2 継続 課外授業や個別指導により、校外模擬試験や実用英語技能検定等の得点力を向上させる	B		
			3 継続 ALTとのティームティーチングを活用し、英語による授業を推進する	B		
	家庭	1 より充実した生活を営むための必要な知識の習得	1 継続 身近な題材を多く取り上げ、生活のルールやマナーを理解させる	C	C	・基礎的な知識と技術の習得（生活の変容） ・生活に密着した教材研究
			2 継続 実験・実習を多く取り入れ、わかりやすい授業を展開する	B		
		2 日常生活に必要な技術の習得	1 継続 興味・関心を高めるための実習の計画を工夫する	B		
			2 継続 生徒に自己評価をさせ、達成度を明確にする	C		
		3 消費者としての責任ある行動をとるために必要な知識の習得	1 継続 身近な題材を取り上げ、興味・関心を高める教材づくりを工夫する	B		
			2 継続 生活情報を収集し、生活課題に取り組ませる	C		

評価項目		具体的目標	具体的方策		評 価	次年度への課題
情報	1 情報リテラシーの育成		1 継続	キャリア教育の観点から、必要となる情動的な見方や考え方を養う上で基礎となる態度、技能、知識を身に付けさせる	C	C ・新教育課程に向けて指導と評価の研究を進める。(継続)
			2 継続	自らテーマ(問題意識)を持ち、自ら学び、自ら考え、主体的に取り組めるように、教材や授業展開を工夫する	C	
	2 一人一人の知識・能力に応じた指導		1 継続	学習意欲の高い生徒や目標意識が明確な生徒に対して、発展的な指導を行う	C	
			2 継続	学習意欲の低い生徒に対して、丁寧な指導を行う	C	
	3 指導・評価方法の研修と改善		1 継続	生徒が満足できる授業を行うための指導法の研修を行う	C	
			2 継続	授業態度、成果物、定期試験等を総合的に踏まえた評価を行う	C	
いじめ問題対応の取組	1 いじめの未然防止		1 拡充	特別活動の諸活動をできるだけ生徒主体で企画運営させること通して、自己有用感・自己効力感を高める	C	C ・インターネット環境等に関する職員研修を実施する。
			2 拡充	部活動や委員会活動を通して、生徒同士が互いに規範意識や自己指導力を合える環境をつくる	C	
			3 継続	登校指導や声かけにより、生徒が教職員と相談しやすい関係を構築する	C	
			4 新規	研修会等を実施し、情報モラル教育を推進する(SNSによるいじめ対策)	C	
	2 いじめの早期発見		1 継続	年3回個人面談を実施する	C	
			2 継続	丁寧な電話連絡などにより、保護者が学校へ相談しやすい環境をつくる	C	
			3 新規	複数の相談機関を生徒や保護者へ周知する	C	
	3 いじめが発生した場合の迅速な初期対応と早期解消		1 拡充	被害者の心のケアを最優先した指導を全職員が行う	C	
			2 新規	SNSを介したものを含め、いじめの事実を適切に把握し、迅速に対応する	C	
			3 拡充	加害者に対して、いじめであると正確に認識させ、理解不足などにより繰り返すことがないように指導する	C	
			4 継続	重大事態があった場合、詳細な調査をし、県教育委員会に迅速に報告する	C	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評 価		次年度への課題
いじめ問題対応の取組	4 関係機関との連携	1 継続 積極的に保護者と連絡とり，連携を深める	C		
		2 継続 地域の協力を得られるように地域の集会に積極的に参加する	C		
		3 拡充 警察，児童相談所，法務局等の関係機関と積極的に情報交換をする	C		
		4 新規 学校外場で起きたいじめに対しても適切に対応する	C		
	5 教員研修の充実	1 拡充 伝達講習を行うなど，校内研修を実施する	C		
		2 拡充 事例研究を通して，いじめの対応方法の共通理解を図る	C		
		3 新規 インターネット環境等に関する研修を積極的に行う	D		

*評価基準：A（十分できている），B（達成できている），C（概ね達成できている），D（不十分である），E（できていない）